

今月のPICK UP NEWS!



ありがとうと笑顔があふれた感謝祭

令和2年7月豪雨で店舗を失うなどした事業者の再建を支援するため、令和3年2月にオープンした仮設商店街「モゾカタウン」。日頃の感謝の気持ちを形にしたいと、同商店街が主催する秋の大感謝祭が9月23・24日に開催されました。踊りや楽器演奏などのステージに加え、会場の一角にはふれあい動物園を開園。夜はビアガーデンをオープンし生ビールを1杯100円で提供するなど、子どもから大人までたくさんの人たちを楽しませました。同商店街会長の中村真悟さんは、「豪雨災害前も今も、お客さんに喜んでもらいたいという事業者の思いは変わりません。たくさんの方の笑顔を見ることができて久々に潤いを感じました」と目を細めました。



熊本のタレント英太郎さんによるモノマネショーでは大きな笑いが起こった（上）／阿蘇郡南阿蘇村から来た移動動物園。来場者は餌やりや抱っこなど動物との触れ合いを楽しんだ（左下）／ステージプログラムには15団体が出演（右下）



地域に愛される鉄道を
存続させるために

くま川鉄道と地域の魅力を発信する
地域おこし協力隊

横山 貴一さん(瓦屋町)

よこやま きいち

平成7年9月6日生まれ。東京都生まれ大阪府で育つ。立命館大学で経営学を学び、卒業後証券会社に入社。高校時代からの目標であった起業家になるため、会社を退社。令和2年8月に企業のSNSを使った情報発信をサポートするSNSマーケティング事業を立ち上げる。今年5月から人吉市の地域おこし協力隊に任命され、くま川鉄道などの魅力発信を行う。



▲独学で学んだ編集技術で、撮影した動画をYouTubeチャンネル用に編集する



▲9月に行われた「くまてつまつり」では「くま鉄チャンネル」の公開録画を行った

お人よし

人吉で輝いている人

「単なる移動手段ではなく、地域に愛されている鉄道だと思った」。大阪から人吉へ移住し、地域おこし協力隊としてくま川鉄道などの魅力を発信する。

大阪で企業のSNS（交流サイト）の運用サポートをなりわいとする中、月1回ほど仕事で人吉を訪問。豊かな自然と気さくな人柄に魅了された。熊本県内の取引先も多いことから、人吉への移住を考えていたところ、くま川鉄道と地域の魅力発信を行う地域おこし協力隊の募集を知り、「経験を積むいい機会。何より人吉で仕事したい」と応募。今年5月に任命された。

くま川鉄道の魅力を伝え、課題である収益の向上を図るため、着任翌月には動画共有サイトのYouTubeで「くま鉄チャンネル」を開設。くま川鉄道株式会社の社長が全国から届いた質問に答える動画やベテラン運転手への密着動画などを配信し、2カ月でチャンネル登録者数は千人を超えた。「広告収入を得るにはまだ再生時間が足りないが、いつか鉄道会社の中で一番になりたい」。

発信手段を広げるため、9月には注目の動画共有サイト・TikTokにもチャンネルを開設。「どんな形でもいいので、地元の人にこそ応援してほしい」。くま川鉄道の存続のため、今後もSNSでの情報発信のほか、グッズなども作りたいと意気込む。

今月の表紙



上益城郡山都町から「くまてつまつり」に遊びに来た家族3人。アルミカートに乗って、普段経験することのできない特別感と風を切って進む爽快感を満喫していました。